

第3回新城市総合計画審議会 会議録

日 時：平成30年8月30日（火）午後6時～午後7時45分

場 所：新城市役所 4階 4-3会議室

出席者：審議会委員10名（欠席4名）、事務局6名

1. 開会

審議会の会議録署名人を2名指名した。

2 会長あいさつ

皆さんこんにちは。今日は3回目の審議会となります。当初予定では5回のうちの3回目ですので、折り返し地点に立ったということですが、今日は皆様方にこの間調査をし、あるいは検討をし、また皆さんからご意見いただいた内容を踏まえまして、総合計画基本構想の大まかな内容について触れていく場面が非常に多くなってまいります。ですので、今日は皆様方にひとまず全体に係わる情報を見ていただき、それを踏まえてご意見をいただくという場面にしていきたいと思います。どちらかというと説明が長くなるかと思いますが、ご辛抱強く聞いていただければと思います。

いただいた質問については、なるべく次回に担当課の意見等を事務局で確認・精査していただき、お答えをいただくという形で進めていきたいと思っておりますので、今日は繰り返しのようになりますが辛抱強く説明を聞いていただければと思います。

なお、時間については19時30分をめどに運営をしてまいりたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。本日もよろしくをお願いします。

3 協議事項

(1) 基本構想（案）について

- ・ 前回からの修正点について
事務局より資料に沿って説明。

【質疑応答】

委員)

9ページのところに包摂的な社会の形成とありますが、これ非常に興味深いと言いますか、いいことをおっしゃられていると思うのですが、これを掲げているということは、包摂されていない人がいるということで、具体的にはその人たちをどのようにするのかという話にならないと、あまり書いている意味がないと思うのですが、疎外されている人というのは具体的に誰がターゲットとなっていくという話になっているのでしょうか。

事務局)

具体的に誰がということもありますが、今後はこのような包摂的な社会になるよう市として掲げています。例えば地域の中で、排除だとか除外といったことをしないような考え方になってくるわけですが、地域の中でみんなが誰かを排除するといった考えではなくて、みんなが一緒になって考えていく、そうし

た社会にしなければならないということで記載しています。

委員)

私の認識はそうではなくて、ヨーロッパの話だと具体的に阻害されている人として薬物中毒者とか、元犯罪者の人たちです。

その人たちが本当に困ってしまっていて、ほっておくと社会がおかしくなってしまう。要するに地域が壊れていってしまうということと密接になっていることから、例えば都市の再開発をやってもこういうプログラムとセットにしないとうまくいかないのです。

だから、今みたいに情緒的なことでこのように書くのではなくて、本当に困っている人に対して何かやるということを書城がやるという意味で書くのであれば意味があって、今のような話は当たり前の話なので、あまり意味がないのではというのが私の意見です。

委員)

今委員がおっしゃったようなことは、おそらく基本計画の中で出てくる話だと思います。実際に家族の多様化が進む一方、地域社会の中で等しく受け止めていくということが、これからの市民参加の大きな課題であるということになります。ですので、今委員がおっしゃられたことは基本構想のところまでどこまで表せるのかというのがありますが、基本計画の段階で新しい課題として受け止めて施策を打ち出していかないといけないと思います。

委員)

新しく始めるというよりも、これをきっかけとして新城市として独自の取組みを進めていくという方向で、ぜひ使っていただきたいと思います。

委員)

この審議会でもお話をさせていただきましたが、今後外国籍の就労者が増えます。そうした外国から来る、一定期間だけ住むとしても働く人として単純に位置付けるのではなくて、多文化の共生の可能性を探れるメンバーとして受け止めていく、そうした取り組みが必要ではないかということもありましたので、従来の生産年齢人口であるとか、若者や日頃目に見える非常に意欲的に取り組んでいる人たちだけをとらえた施策ではだめだというのが、新城市の人口が非常に少なくなっていく社会の中では重要なキーワードとなります。

今、委員から話のありました包摂的な社会について具体的にするのは施策として打ち出していくこととなりますが、具体的な例として次回可能であれば提案していただきたいと思います。

委員)

今の包摂的な社会というところで、自分もあまりなじみのない言葉で聞いていたのですけれども、身近で見ているとこれが包摂的かどうかはわかりませんが、高齢化の中で一人住まいの高齢者が徐々に増えてきており、今であればまだ畑に行ったりして接していたものが、だんだんそれが体が弱くなって外にも出向かない、というのが山間部で目立つようになってきました。そうした人たちに対しての手当ないし対策というものを考えていかなければと自分は読み込んだのですが、先ほどの社会的な排除をさせられるということではなくて、環境の中で段々と接点を減らしていかざるをえない人の孤独死だとかということが、後のところで書いてあるところとつながってくるのではと読み込んだのですが。

委員)

それも間違えではなくて、むしろ新城では大事な視点です。

委員)

それが新城にとっては一番の課題になってくるのではと思います。

委員)

2 ページのまちづくりのフレームのところ、第2次新城市総合計画ではこれまでの「数や量(の増加)」という捉え方のみならず、新しい視点や考え方を導入するとあります。まさにこれに当たるというところですね。納税をしているいろいろなサービスをするという前提でもって市民に還元するといった福祉国家的な観点だけではなくて、働く人たちが多く、子供たちが増えるというような観点だけでまちの未来を考えていくのではなくて、先ほど説明があったように元気な高齢者の社会参加や、あるいは、雇用期間の延長、女性の活躍領域の拡大促進、外国人就労者の受け入れをはじめとしているいろいろな人たちをすべからず排除するのではなくて、逆に家庭や近隣、職場や地域の中で幅広く迎え入れていきながら未来を考えていくということを具体的な施策に結び付けていきたいということで、包摂的な社会を目指したいという提案でありますので、是非今の指摘も大事にさせていただきたいと思います。

今後の施策の中にお二人の意見も反映されているものが用意されているようであればまた、ご紹介いただければと思います。

委員)

10 ページの重点的な方針、経営資源のところですが、「財源」、ヒト、モノ、カネ、情報ということだと思っておりますが、施策体系ですとか拝見していると、はつらつ世代と共に新しい生き方とか、はつらつ世代ということが多岐に出てまいりまして、高齢者の方が持っている資源として「知恵」というものも見えざる資源、資産として入れてはどうかと思います。

ヒト・モノ・財源・人材・組織・情報・知恵というのは新しい形での新城市の資源になるのではないかと思います。いわゆるヒト・モノ・カネ・情報・知恵の、知恵というキーワードを入れてはと思います。

委員)

知識社会とかこれまで培ってきた方々の知恵を資源としていくという提案で、今後検討していきましょう。

事務局)

知恵とか経験とかその方が持っている人的ネットワーク、そうしたのも第5の経営資源になりうるのではないかと検討しておりまして、非常にいい提案をいただいたと思っております。

委員)

経験とか、勘とかスキルとかそうした言葉が、知恵という言葉になると意外と一般的なもので、おっしゃられるように経験とか因数分解した言葉となるのかなと思います。

委員)

1 ページの「まち」の姿のところ、新東名高速道路の開通効果とありますが、心配なのが、三遠南信もいずれ開通していく中で、非常に心配なのがこれがあるために逆に外に出て行ってしまうという現象が起きてしまう。前にも言ったことがあると思うのですが、引力をどこにつけていくのか、というまちづ

くりを進めるべきか。今のままだと浜松だとか、作手であれば豊田や岡崎に出ていってしまうというのが現状でありますし、まちの魅力というものを本当に考えていかないと空洞化してしまう、魅力のあるまちというものが何なのか非常に心配であるし、逆にそうしたものができれば活力あるまちになってくると思うのですが、交通の要衝として新東名から魅力を出すようなまちづくり、道路も含めたものを戦略としてどのようなものを考えていくのか、抽象的で申し訳ないですが、心配していることとして、ここに住んでいて外に誰かが出ていってしまう機運が地域の疲弊に直結する問題だと思うのですから、今のところ新東名も三遠南信も含めた中でどう人を呼び込むのかなということだと思います。

委員)

10 ページのところ、前回、経営資源の制約というところで定義をという話があったかと思うのですが、今読み直してみても経営資源の制約を前提としたというのは前回説明があったかもしれませんがわからないので、説明があるのかなと思います。

それから、もう1点目は説明を聞き逃していたら申し訳ありませんが、前回、3 番目に行政経営プロセスの転換・再構築の下に圏域内・圏域間連携の推進という見出しがあって、それが医療のことなのか、観光のことなのか具体的にということがあったかと思ったのですが、今回その部分がなくなっているのはなぜでしょうか。

事務局)

行政経営プロセスの転換の2 段目のところに、また、「経営資源の活用や」という形で記入してあり、医療や防災等という点を具体に入れさせていただき、3 つあった方針を2 つに集約させていただいております。

経営資源の制約についても注釈を入れさせていただきます。

・ 4 施策の体系について

事務局より資料に沿って説明。

【質疑応答】

委員)

A3 の資料を見させていただき、この表を作るのに大変であったなと思います。ご苦労様でした。それで、2、3 確認したい点があります。1 点目は分野毎の目標の語尾ですが、何々しています、となっているのはそれなりの考えがあってやっていることだと思いますが、例えば「子どもが健やかに育っています」であれば「子どもを健やかに育てる」とか、「一人ひとりが主役となり支え合う」とかのようにするのはなくて、このようにしたのはなぜかという点が1 点。

2 つ目は I 多様な生き方や個性を認め合い、新しい価値観を創出する「ひと」、これは乳幼児期から高齢期・長寿期まで工夫した点であるのかなと思いましたが、3 一人ひとりが主役となり支え合っていますというのは、乳幼児期からこの言葉を借りるならば高齢期・長寿期までかかわることだし、4 いつでも誰でも学べる場が用意されていますも、ある意味全ての時期にかかわってくるのかなと思いますので、ここに限定させてしまうことは少し苦しいのかなと思いますが、どうしてこのようにしたのが2 つ目です。

3つ目は大きな3つの目指すべき姿の例えばⅡ豊かな資源を活用し、潤いのある暮らしを創出する「ちいき」とありますが、豊かな資源というのが何かというと、歴史・文化・自然であるとか人間の知恵であるとかこうしたもの以外に新城で豊かな資源とは何かと考えたときに、その資源をどういう風に活用して、潤いのある暮らしというのが何かということをもう少しわかりやすく書いたほうがいいのではないかと思うのですが、Ⅲの山の湊の展開により、新たにぎわいを創出するとなっていますが、山の湊の展開というのは1ページのところで書いてあるように、中継地として栄えたことから新東名や三遠南信等の道路網の発達をいかし、それによって新たにぎわいが生まれると。その新たにぎわいというもの何だということが、もう少しはっきりとわかるような形で書いたほうがいいのではないかと思います。

事務局)

1つ目の語尾についてですが、今目標と書いてありますが、最初にプロジェクトチームに検討を促すときには将来の姿、こういう風にあるべきだという姿をという指示を出してしまっていて、それでこのような語尾で、「安心して子育てしています」、「一人ひとりが主役となり支え合っています」という意図で語尾が何々していますとなっています。

委員)

姿ということであればわかりました。

事務局)

それから、2点目の3番の「一人ひとりが主役となり支え合っています」や、4番のいつでも誰でも学べる場についてもライフステージ全てにということですが、それはおっしゃるとおりです。これについては表現の仕方を工夫していかないといけないのですが、この表が縦で乳幼児期、小中学校期、青年期・中高年期と区切られてしまっていますが、厳密に区切っているつもりはなくてどの分野にもシンクロしているとは考えているのですが、特に力を入れていきたいステージとして色を付けているものです。

3点目のもう少しわかりやすいという点ですが、豊かな資源、潤いとは何かということですが、まさに1ページのところの(2)「ちいき」の姿で書いてありますが、今委員おっしゃられた自然・歴史・文化等が豊かな資源であると、それから2番目に書いてあります住民、地域、行政等との連携や意思を作るステージ、いろいろな話し合いの場があったり地域の活気があったりするところが、豊かな資源だと考えております。潤いとは何かという点についてはそれも1ページの3点目に地域経済の仕組みをと書いてありますが、一つはお金、お金を稼ぐことで潤いが生まれますし、みんなが肩を寄せ合って自分の意思を継いで地域の暮らしを守っていくということも、潤いであると考えています。

それから、山の湊のにぎわいとは何ぞやということですが、これはにぎわいの部分がわかりづらいと思っています。1ページの(3)「まち」の姿で、大都市圏からヒト・モノの流れを引き寄せ地域経済を活性化するというところが一つのにぎわいでありまして、もう一つはその下にありますが雇用を増やすであるとか就業を増やす、雇用機会を増やすというのにもにぎわいであると思っています。それから3つ目、特に個性ある人材(財)と豊かな資源がその能力をというのにもにぎわいであると思っていますが、委員のご指摘を踏まえてもう少しわかりやすい表現を検討していきたいと考えております。

委員)

先ほど委員の皆さんからのご発言にもありましたが、特に私の住んでいる地域でいうと独居老人の方が非常に多くて、だいたい女性ですが、こうした方が今から10年後、計画期間の12年後の姿を見たときに、もっともっと増えるのではないかと思います、現実の問題として。それに対する対策は載せなくてもいいのかなとか、あるいは私の地域の農業の中心者というのは70代の方が中心者となるのだけれども、あと10年たった時に農業の担い手はどうなってしまふのかということを考えてときに、そうしたことを盛り込まなくていいのかなということも考えていただきたいと思います。

委員)

いろいろな事例を見ていくなかで、こちらの現実というのは今おっしゃられたとおりで、今まで60を超えた方たちがある程度農地を引き受けてやってくれた人たちが70歳を超えてきた。そうすると限界だからといって手放しても次に引き継ぐ人たちがいない。もう一つ背景となっているのが、定年延長で65歳までになってしまい、60で定年になったからトラクター買ってとかということができたのが、65歳になってしまうとそこからの投資というのが危険で、やめてしまう。それから経験が少ない。今まで75歳まで頑張った人たちがいる関係上、途中で手放してしまっている人が多くて、今からカムバックというのは非常にハードルが高くなってしまっているということが背景にあって、非常につらい立場にあります。

ただ、今現状を見ていますと、今まで丸投げをしていた方たち、田んぼを作ってもらうのにすべてお願いをしていた人たち、水回りや草刈りまでお願いをしていたのが限界となっています。そうすると、地域全体で集落営農をやるのも一つの手ですが、多分新城ではそれができないと思います。今言ったように丸投げをしていた人たちの世代もカムバックはできない。そうなってくると誰かに、一部の担い手にもう一度40代や50代、弱冠30代の方もいますが、そうした方に預けるのだけれども、経営として考えてみると20町歩、30町歩の規模でないと経営として成り立たない。持続できる経営となりません。こうなってきましたと、それを支援してくれる地域の方たちが草刈りや水回りのお手伝いをしてあげるようなことを考えていかなければいけないのかなと思っています。もう一つが国の方で言っている法人を立ち上げてみんなで作るという、いわゆる集落営農的な形ですが、悲しいかな新城で集落営農をやろうとすると、一つの集落で10町歩以下のところしかありません。そうすると経営が成り立たなくなってしまう。収入源として、水田を見守ってもらってもそれではやっていけないから、そうではない収入源を考えていかなければいけないというところをこれから考えていかなければいけないのかなと思っています。

これは本当に大きな課題であるし、後から言おうと思っていましたが、森林資源もそうですし、持続可能な農業構造とはどのようなことなのか、もう少し具体的に見えないと市が何をやろうとしているのかわからないというところにつながってくるのではないかと思います。

事務局)

ただ今、委員がおっしゃられたように施策をこの体系図で表していますので、今後この施策に基づいて基本計画を策定していきますので、今委員がおっしゃられたような、より具体策というものはそこで記載していきたいと思っています。

す。
委員)

非常に重要な論点ですので、ここの施策体系の中で全く書かないというのもわかりづらくしているところでもありますので、ある程度もう一度書き込む、入り口の部分を。具体的なところは基本計画、実施計画で表していただければと思います。

委員)

確認をさせていただきたいのですが、既にやることが決まっているというのか、市長の公約のように、そうしたものがあってこの字面を書いているのか、それとも最初に言われたように庁内にチームがあってということでしたので、本当に今後10年間でやることをボトムアップ型で何ができるかと議論しながら決めているのか、どちらなのか。

事務局)

両方です。

委員)

思ったのは都市計画のインフラ系の話がこのA3の資料を見ると、未来投資型のインフラというものがあまりないような気がして、例えば一番最後の施策の見直しのところで、1次総合計画では光ファイバネットワークを有効に活用しますとなっていたものが、案では対象に応じた情報発信・情報共有に努めますとなっていますが、光ファイバネットワークが例えば起業したいという人たちがコンピューターがあれば企業ができるわけですので、自由に例えば、作手に来て起業できますよという環境が整備されているのか、そうでないのか、そういうのがインフラ整備であると思うのです、投資型の。例えばフリーWi-Fiが使えるエリアが市内にどれだけあるのか、この市役所がどうであるのか。駅とか、人が来るとかは関係なく、ニューキャッスルアライアンスですかそれで世界から加盟国の人に来るわけですね。そうした投資がどうなっているのかとか、道路網の整備を進めますと書いてありますが、具体的にどこの道路をどうするのかという、従来型の作業道路をまた作るのか、例えば道路といっても日本の道路は全然設計もなにもなくて、ただサーベイしてラインが引いてあるだけです。ところが、ヨーロッパの道路みたいに歩道部分を切って上にあげてあるとか、自転車レーンは確実にスペースが切ってあるとかしてありますが、全然優れていませんよね。日本でも市街化区域だけでもやり直そうとしても全然遅れていますよね。そういうものへの投資なのか。

それから、健康年齢の話もありましたが、17ページを読んでも健康年齢が上がってきたから、こうした人たちに働いてもらいましょうということが言いたいようで、一番下に書いてある健康寿命の延伸をどのように進めるかわかりませんが、例えば欧米の高齢者に対して日本の健康寿命というのは低いのです。平均余命は高いのですけれども、寝たきり等で病院に入られている方も相当お見えになりますので、実は健康寿命は長くないのです。ですので、それをどうやって伸ばすのかといったときに、例えば歩くことはしんどいから市街化区域の中だけでも自転車で安心して動けるような整備をすれば、車の運転ができなくても自転車で動いてみようかという気になって、それが運動につながって健康寿命が延びるとか、何か未来志向型のといえますか、雇用も大事なのはわかりますが、暮らしとか従来とちょっと違った未来志向型のインフラ整備

みたいなものが欲しいなと気がしました。

事務局)

未来志向型の考え方も検討していきたいと思います。

委員)

インフラ整備を行っているような事例はあるのでしょうか。

委員)

徳島県の小さな町でインフラが非常に高度に整備されていて、起業活動も非常に活発に行われ、街の活性化につなげて非常に有名などころがあります。そこぐらいしかないですけれども、インフラ整備をするにしても情報インフラが整備されていないとだめです。SOHO みたいに民家でコンピューターの達人みたいな若手の人たちが集まってそこで開発をしていると。

委員)

先ほど言われたような 75 歳以上の高齢者も働く以外に体を動かしたり、自転車に乗ったりするようなインフラを作って、実際にその人たちが活用して効果が出ているような事例があるのでしょうか。

委員)

なかなか難しいですね、その因果関係は。実際に日本の都道府県の中で平均寿命が高いところがどこかを調べて、その要因が何かという分析をしている論文などを探してみても、その結果が体を動かしたり畑をやっているなど、よくわからないような結論になっているのですけれども、結局のところ先ほど言ったような基本的な日常の動ける環境の整備や、体が動かなくなってもサポートできるような保養施設や福祉系の施設がしっかり整備されているといったことの積み重ねだと思えます。先進国のやっているところを見ると。

委員)

インフラなどに投資をしても結局、市民が活用してくれないと意味がなくなってしまいます。

委員)

私もそうは思いますが、それを理由にやらないというのではなくて、あって当たり前なのです。

委員)

まちづくりの中で、身近でこういうまちづくりっていいなと思っているのが隣の浜松の都田の工業団地の中の一角に、公園があって商業施設があって環境に影響のない工業団地で、まちづくりとしてメイン道路の横には電柱が見えなくて歩道がしっかりと整備されていて、日本的ではないけれど若者もこうしたまちがいいのではと思えるようなまちづくりを進められていて、こういうのが魅力なのかなと思っているのですけれども、あの地域の工業団地の法面の藤も管理がしっかりとされていて、それを楽しみに見に来る方もいるそうです。そうしたことができればいいなと思えます。

委員)

目標の方向を固めてそこに施策を合わせていくと、13 ページ以降に分野というのがタイトルの下に教育・文化・生涯学習分野というのが出てきますが、パッと見てそこを見るほうがどこのテーマなのかなということがわかりやすく、目標と分野とごっちゃに入ってくるようになると、これもこのあと作り上げていく中で分かりやすくなっていくと思いますけれども、この段階では少し

わかりづらいのかなと思います。

あとは、下から上がってきてはめ込んでいくと具体性とか多少わかりづらいところがありまして、そうしたものを意識した言葉とか、これが新城というような部分というの、未来志向というの、そうだと思いますが、これは他と違うところ、中ポツと見えてくるとよそと違うと、だいたいよそもこういう形になっていると思います。

それから、前のところで出てきたところ、10 ページのところ、これまで企業経営の話では経営資源のことを聞いたことがあるのですが、行政経営の経営資源というのは初めてでして、こういう風に分けるのだと思っていたのですが、情報という言葉の中には先ほど議論されていた知恵とかノウハウということも含まれていて、5つ目のというよりはこの情報という文字を例えば経験とか知恵と書き換えたほうが、既にモノの部分が組織に変わっていると思いますので、それを考えると書き換えてしまってもいいのかなと思いました。

委員)

今後こうした情報、経験値的な情報を共有する、あるいはそれを使って新しい運用をしていくインフラというものはないですね。それをどうするのか、光ファイバも大事だし、一方で知識というものをどのように活用していくのかということにもなります。

委員)

今までの10 ページまでの第2回までの内容ですと、具体的にどのようにしていくのかと思っていましたが、今日の表を見ましてこのようになっていくのだなという、これから具体的にものになっていきながら、ここはここと結びついていくのだなと自分なりに分かってきました。

委員)

11 ページの将来像の右側の「ひと」の姿の下に、人材育成の確保と書いてありますが、A3のひとの姿のところ、5つの分野毎の目標が書かれています。一つ気になるのがこの5つの目標を実現するための人材育成の部分がどうなのかというところが見えてこないのかなと感じましたので、環境づくりをしていきますよというの、5つの目標のところ、含まれていますので、人材育成、こうしたものを実現させていくためには各地域にリーダーが必要なのかなと思います。

委員)

最初に確認したいところが、先ほど委員が言われたことと同じで、それぞれの施策の目標としてあるところの語尾が、私たちも計画を作るにあたって目標であるので、「します。」というよりは「していきます。」と、なったらいいなぐらいの語尾にするイメージがあったので、その趣旨がどんなイメージで「します」にしたのか確認したかったのが一つです。

それから、総合計画の基本構想の中で、各委員さんが言われているおおもとのこういうことというのは、先ほど説明があった基本計画に個別によりこの構想をもとに出来上がっていくのかなと話を聞いて思いましたので、基本計画というのがより重要になるとかなというの、まだ総合計画というものがどういうものなのか乏しい中で、一つ一つ個別の特に福祉の分野であるとか、一つ一つ世代別に見てもいろいろな環境の違いの中で課題というのはたくさんありますので、その辺を基本構想でまとめるのは難しいのかなと、基本計画の中で

より詳細に詰めていくものになっていくのかなというのが、何となく今の皆さんの話を聞いて見えてきたと思いました。

委員)

これから、むしろお願いしたいところがありまして、地域福祉計画ですとか、地域福祉活動計画ですとか策定されていると思います。それらの計画の期間と合わせたときに、福祉計画等では取り上げられなかったけれども全市として取り上げて、引き続き取り組んでいくことがこれからの新城を考える上では大事なのだというような具体的な施策があるようでしたら、この会議の時間以外の時でも結構ですので、提案していただけると助かりますので、よろしくお願ひします。

委員)

これから練り上げていくということですから、色々出た意見を反映させていただければいいのですけれども、新城市としては本当はどういう方向にもっていきたいのかというのがわかるような形にしてもらいたいと思います。新城は愛知県の中でも本当に小さな町だし、財政的にも県下でも一番低いところに近いのではと思っていますので、そんな中であれもこれも理想ばかり言っても現実には常態化されないと思います。だから、そうした中でも新城の特徴をどういう形で生かしていくのか。先ほど話した新城市で言えば作手地区だとか鳳来地区だとかそうしたところは本当に限界集落というのが目に見えてきます。人口減少で、例えばお祭りもできなくなっているだとか、あるいは地域としての生活がだんだん成り立たなくなってきたりとか、あるいはお年寄りが買い物するのを困らせてしまっているとか、現実にもこうした問題が出てきつつある中で、10年後どうなるのかなど。今70歳の方は80歳に、80歳の方は90歳に、いくつまで元気でおられるかわからないけれども、そういうような人たちに対して新城市はどういう支援をしていくのか、それから、子どもたちもそうなのです。実は市内に小さな学校がいくつもあって、そうしたところではますますいろいろなことができにくくなっていくのです。私の住んでいる地域の小学校も4校を1つにまとめて、大体80人の学校ができました。ですがこれが今から7年ぐらいたつと60人ぐらいになって、それから先にはせつかく4校が1校になっても複式学級の可能性も否定できなくなります。子どもが減っていってしまいますので。そういうような少子、子どもが少ない状態に対して行政は、例えば定住の促進だとかあるいは移住者を増やすとか、そうした方策をとるなら基本構想に盛り込無べきではないかと考えます。

委員)

基本構想の中で表現するのか、あるいは基本計画の中で出すのか、そのあたり方針で結構ですので次回可能な限り用意をしてください。

委員)

新城の都市計画を作るときに何度かお声掛けをいただいて、参加させていただいたことがあるのですけれども、皆さんもご存じだと思いますが、新城の場合、都市計画区域が市域のかなり狭い部分で一応そこで線引きはされているのですが、市街化区域がかなり狭くなっています。ですので、普通の都市であれば都市計画で書き込むとそこでかなり市の形が決めることになるのですが、新城ではそうならないので、例えば鳳来や作手の山村地域の話はどうするのかっていうと、総合計画になってくるのです。都市マスタープランでどれだけ書

いてもそれは書いてあるだけということになってしまうので、この総合計画が大事になります。都市計画でやる施策以外のツールも含めて、非常にこれが重要だということだと思いますし、そういう認識もあります。

それからもう一つは、これは私の個人的な意見ですが、事前に説明を聞いた時にも申し上げたのですが、先ほども新城は愛知県の中でも財政規模も小さい都市でとあったのですが、そういう都市であればあるほどやりやすいということは、世界につながるということだと思います。例えば国連憲章か何かで、国連で掲げているようなまちづくりの理念か何かをキーワードをトップに掲げると、やれるかどうかは別にして、自分たちは愛知県の何かを見て決めているというわけではなくて、世界水準、世界につながるということだと思います。そうすることによって、市民の方の意識も変わってくるかもしれませんし、そうした戦略がニューキャッスルアライアンスの活用にもつながってくるのではないのでしょうか。こうした意識の持ち方が大事ではないかと思います。そうすれば一発逆転で、世界につながる、世界水準のことをやっているということになります。こうした意識の持ち方が大事だと個人的には思っています。

委員)

総合計画を開くと一発逆転の施策が表されているようなユーモアがあってもいいかもしれませんが、それくらいの気概が必要だと思います。色々な国内外の状況や、優れた実践に伴う経験を知ったうえで描くのと知らないで描くのでは全く雰囲気違ってきます。

委員)

この A3 の表がわかりやすく立体的になっているのを見まして、先ほどもありましたが時系列で乳幼児期から高齢期まで並んでいて、確かにこの青年期・中高年期が連動強化ステージということでしたが、確かにいろいろなところでもとらえられる話かとも思いましたが、少し部分、点の話になってしましますが、この表を基に説明を聞き 15 ページのところの基本方針の丸の 3 つ目で高齢者のことが出てきてしまいますので、17 ページの高齢者のところではないのかなとか、なかなか線を引きながら入れていくのは難しいのかなと思いますが、A3 の方は施策体系としては非常にわかりやすい資料になっていますので、矛盾がないようにしていただければと思います。

委員)

感想ですが、先ほど言われた豊かな資源だとか、新たなにぎわいというのを具体的にという話もありましたが、感想としては今自分たちがここに落とし込める、想像できるレベルの豊かな資源とか新たなにぎわいではなくて、誰もが今想像できないような新たな資源であるとか、新たなにぎわいというものが、12 年後にできているといいなと思いました。というのも、例えば新たなにぎわいというのが、観光で言いますと雁峰林道はただの林道であったのがラリーのコースとして使われて、今は WRC で世界のラリーの一候補にまでなっていることは 10 年前には想像ができなかった新たなにぎわいです。そうしたことが 12 年後に今自分たちが想像できないことが起こっているといいなという含みを持たせておくタイトルというのは自分はいいかなど。今の想像力で具体的に細かく書いてしまうよりも、含みを持たせたあいまいですけども、豊かな資源、新たなにぎわいというのは可能性があるのではないかと、期待を込めてこれでもいいのではと思いました。

委員)

15 ページを読み直してみてもそうなのかなと思うのですが、自分も市民、中の人間から見る、外から見るのではなく中から見ると、暮らしの中で自助・扶助・共助がある中で、都市部だとどうしても公助が多くなって、こうした田舎だと自助や扶助をやらないと市民が今後この地域でへき地も含めてやっていくためには、何かやってくれるのではなくて、自分でもここに住んでいくためには何をやっていかなければいけないのかということを感じるようにしていかないと、商業や産業も含めて、また暮らしも含めて、何を自分たちは動かなければいけないのか、そして地域をどうやって守るのかの、きっかけになるようなものがあればいいのかなと思いましたが、具体的にどう書くのか、また全体でも大変なことだと思いますが、へき地のことも考えていかないといけないと思いますので。

委員)

公助を執行するような雰囲気書かれている部分が多いのではということですね。実際には、そうではないのだけれども行政が何かやってくれるような期待を読み取ってしまうような。

委員)

それを期待してしまうと、待ちの姿勢になってしまいますので、何か仕掛けていくという意識にしないと、市にもコストパフォーマンスがあるはずなので、その辺を考えていかなければいけないと思います。それを感じてもらえるように。

委員)

そこは本気で市だからやるという決意が出てくるような部分と、むしろ市民の皆さんの、あるいは若者の皆さんのやるところを応援するのだという部分が競合してしまって、なんとなく全体でぼやっとしてしまう部分があります。読み方によってどうにでもとらえられるところはなるべく避けるべきです。

委員)

先ほど言われたように意識を変えるというところで、学生を見ていまして若者議会をやってるわりには何回か言ってもやっぱりというところもありまして、そうしたところを考えると施策もきめ細かく考えていかないといけないのかなと思ったしだいです。

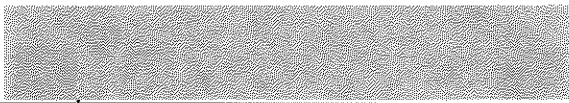
事務局)

次回の開催日について欠席者との調整もさせていただき、多くの方が出席できる日程で調整させていただきます。

閉会 午後7時45分

上記を第3回新城市総合計画審議会の議事録として確認した。

署名



署名

